

教育課程部会
生活、総合的な学習・探究の時間
ワーキンググループ

中学校の職場体験に対する提言
～課題解決型職場体験の有用性～

自分から 自分らしく みんなとともに社会をつくる人を育てる



令和8年4月15日
NPO法人みらいずworks
小見まいこ

探究×学校行事の取組事例①

佐渡市立新穂中学校「課題解決型職場体験」(第2学年、50時間扱い)

マイ
探究

行動系

課題解決型職場体験を通して、仕事と佐渡のつながり、自己の生き方を考える

<単元の概略>

1 事前学習 (16時間)

- ・佐渡のよさや課題について意見交換するとともに、興味・関心に応じたグループをつくる
- ・事業所から提示されたミッションについて話し合う

2 職場体験を含む学習 (20時間)

- ・事業所の担当者と意見交換をする
- ・ミッションを意識して職場体験をする
- ・ミッションを解決するための提案をする

3 事後学習 (14時間)

- ・事業所を招いて発表会を開催する

- ・教育委員会、学校、事業所が構想した**ミッションを事業所から提示**。人との関わり、ものづくり、企画、発信などのミッションがあり、例えば、図書館の展示コーナーづくり、木工品の新商品の開発、高齢者施設のレクリエーション企画、仕事の魅力の発信などがある。
- ・職場体験前に、事業所の担当者と意見交換（**生き方仕事トーク**）を通して、**ミッションにつながる勤労観、人生観、佐渡の魅力や可能性などを深く理解**する。
- ・職場体験では、仕事を体験するとともに、**ミッションに関わる調査をしたり、解決策を提案したりする**など、事業所の担当者とミッションの達成に向けて話し合う。
- ・事後の発表会では、**ミッションに対する提案スライドをプレゼン**し、仕事と佐渡のつながりと自己の生き方を関連付けて振り返る。

※佐渡市全域で展開しており、写真は新穂中学校以外も含む



生き方仕事トークで、ミッションについて深掘りし、職場体験活動における課題解決への見通しをもつ



職場体験において仕事を体験しながら、ミッション解決に向けて調査したり、事業所の担当者と話し合ったりする



提案発表会では、生徒や事業所の担当者などの意見交換によって、自己の生き方を考える機会となる

49

課題解決型職場体験（以下、KST）の設計や支援に携わる立場として、事業の補足と中学校の職場体験に対する提言をします

佐渡市では2020年度より中学校13校すべてで一斉スタート！

理由

1 子どもたちの活用力や思考力を育てるため

佐渡の
子どもたちの
課題

- 習得より活用が苦手
- 思考力や表現力がなかなか伸びない
- 宿題はやるが、自身の課題をとらえて学習を進める姿勢が弱い

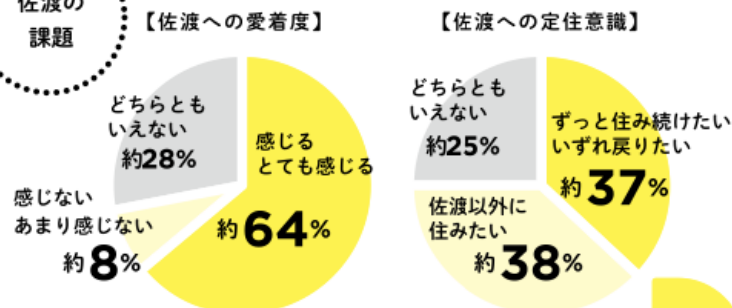
活用する力や思考力を育成するには、
問題解決的な学習や体験的な学習を通して、
「課題の発見と解決に向けて
主体的・協働的に学ぶ学習」が必要

理由

2 佐渡市への定住意識を伸ばすため

佐渡の
課題

佐渡への愛着度が定住意識につながっていない。



「社会を形成するのは自分たち」という
当事者意識や起業家精神が乏しいため、
佐渡においてイキイキと活躍する大人、
課題解決をしている大人との
出会いやつながりが必要

理由

3

探究的な活動を通して、
社会で求められる力を
育成するため

どのように社会、
世界と関わり
よりよい人生を送るか

学びに向かう力・人間性

何を理解しているか
何ができるか
知識・技能

理解していること・
できることをどう使うか
思考力・判断力・表現力

社会が大きく変化している今、全国的にも左記のような力を身に付けるべく、学習指導要領やカリキュラムが変わろうとしている。

今後は、正解が一つでない課題を探究し、納得解・最適解を見付ける経験を重ねることではその力を伸ばせない。

「探究」を経験させるのは
教師にとって容易なことではない。

そこで、**実社会に存在する
リアルな課題を解決する探究活動を
地域や企業と協働でつくる**ことが必要



職場体験

+

課題解決

● ミッションがある

事業所から与えられる中学生に考えてほしい問いや課題

● 事前に生き方・働き方トーク

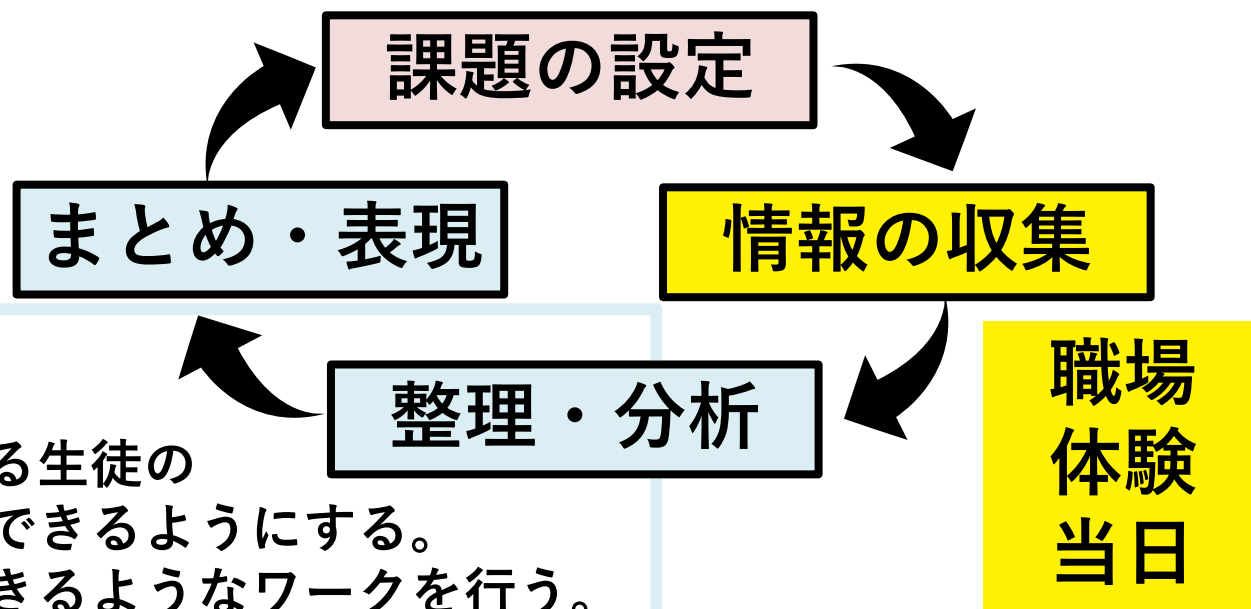
人生でのエピソードや仕事のやりがい

+

ミッションの提示

事前学習

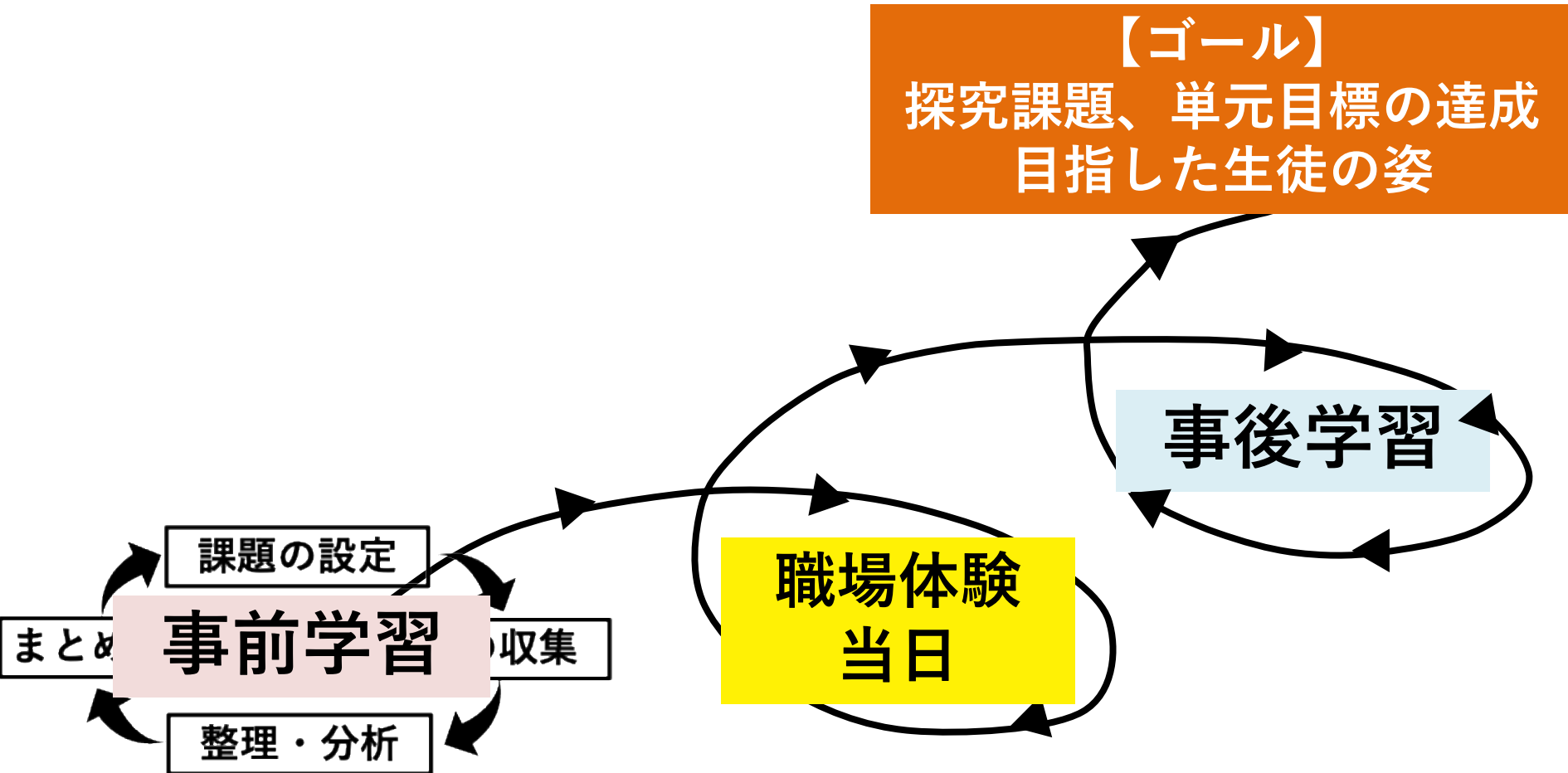
- ・ 地域（佐渡）や仕事の魅力や課題に対して、問いをもつ。
- ・ 課題の深掘りや対話を通じて探究的思考を醸成する。



事後学習

- ・ ミッションに対する生徒の考えを深めて、提案できるようにする。
- ・ 探究目標を達成できるようなワークを行う。

KST当日だけだと、探究サイクルが回らずに
学習が深まらりずらい…



課題解決型職場体験で1つの探究サイクルを回すだけでなく、
それぞれの段階でも探究サイクルが回っていくことで
生徒たちの成長につながる



事業所・佐渡にとって 課題となっている モノゴトをテーマに

- リアルな課題であれば
あるほど「生きた学び」
- 中学生が理解できる範囲で

- ・ KSTの目的、ビジョンの共有
- ・ 教員と事業所の皆さんとでミッションの検討
- ・ 事業所が職場体験プログラムへ落とし込み

-



ミッションを考えるシート

事業所名	住所(町・区・番地)	担当者名	所属 団体
STEP1: 生徒に取り組んでほしい内容、身に付けてほしいポイントを考える			
今年度の活動を通して、 中学生の生活の中に役立つことを？ 考えてほしい内容は？	食生活、運動、睡眠、学習習慣、生活習慣	佐藤 先生	佐藤 先生
ご自身の得意な？ 得意なやりかたを聞いて、誰としたい？	音楽、読書		
学年と一緒に取り組んでほしいことは？	音楽、読書		
STEP2: 生徒が取り組む内容を選ぶ			
ミッションの 主な内容	食生活、 運動、睡眠、生活習慣、学習習慣	企画系 生徒の興味のある活動を選び、 担当職員がサポートする	その他 今のつくり、 中学生らしい活動に、 関心がある活動は？
STEP3: ミッションを作成！			
案1	食生活改善プロジェクト	一人ひとりの健康を、食生活改善から	食生活改善プロジェクト
ミッションを 実践した 学習小単位	食生活改善プロジェクト		食生活改善プロジェクト
案2	読書プロジェクト	一人ひとりの健康を、読書から	読書プロジェクト
ミッションを 実践した 学習小単位	読書プロジェクト		読書プロジェクト

※ ミッションは、1学期か2学期でOKです。担当と生徒の話し合いで決めます。

KST オリエンテーション授業

- ・生徒との関係性づくりとミッションへの動機づけ
- ・生き方働き方トーク
- ・ミッションの発表



Point

1

仕事と佐渡とのつながりを実感できる

従来の職場体験では、勤労観・職業観を知ることが主な目的でしたが、課題解決型職場体験では、3つの段階の「価値観」を生徒の中で実感させます。

佐渡で働く大人がどのような思いや情熱をもって働いているのか、そして、仕事を通して、佐渡の課題解決や地域活性に貢献しているかを生徒に肌で感じてもらい、仕事を通して、佐渡を見直す機会とします。

地域観
社会観

- 地域社会はどのように成り立っているか
- この地域や社会が直面している課題はなにか

人生観

- 人はどんな価値観で生きているのか
- 生きがい、やりがいとはなにか

勤労観
職業観

- どんな仕事があるのか
- 働くとはどういうことか

Point

2

課題解決のために全体を知る

Point

3

仕事の醍醐味を実感する

- 受け取ったお客様に感動や喜びを与えられる佐渡オリジナルの段ボールのデザインを考える（物流：ヤマト運輸佐渡佐和田営業所）
- 佐渡島内の限りあるエネルギーを上手に使うにはどうしたらよいか（電力会社：ユアテック佐渡営業所）
- 自分たちの考え、思い、手で作り上げるお菓子を直接提供し、感じることを言語化してみよう（菓子小売店：クレセントムーン）
- 生産性の高い作業方法を考えよう（宿泊施設：ホテルニュー桂）
- 今の自動車について学び、佐渡の地域での車の必要性や重要性をアピールする方法を考えよう（自動車販売店：佐渡オートフォーラム）
- 子どもたちの発達年齢に合った「手作りおもちゃ」を作って渡そう（保育園：新穂トキっ子保育園）

ミッション（幼稚園）

子どもたちの発達年齢に合った「手作りおもちゃ」を作って渡そう



生徒のミッション解決アイデア

1人1つおもちゃを作成。子どもたちが**必要とする動作**を入れ、工夫したアイデアを提案

- 絵合わせパズル
絵を見て考えて動かす動作
- ミニバスケットセット
ものを中にいれる動作
- 手作りこま
ものをひねる動作



ミッションを
実行したグループ



ミッションを
実行していないグループ
(ミッションの性質上できないグループ)



事業所からの
フィードバックを受けて、
・ やってみてどうだったか？
・ さらなる提案はできないか？
自分たちの解決策や
アイデアを
ブラッシュアップ

事業所で得た情報や体験から
・ 提案や実行の吟味を行う
自分たちの考えを
発表会で事業所に
伝えられるようにする

発表会

- ・生徒のミッション解決アイデア発表
- ・事業所の皆さんから直接フィードバック

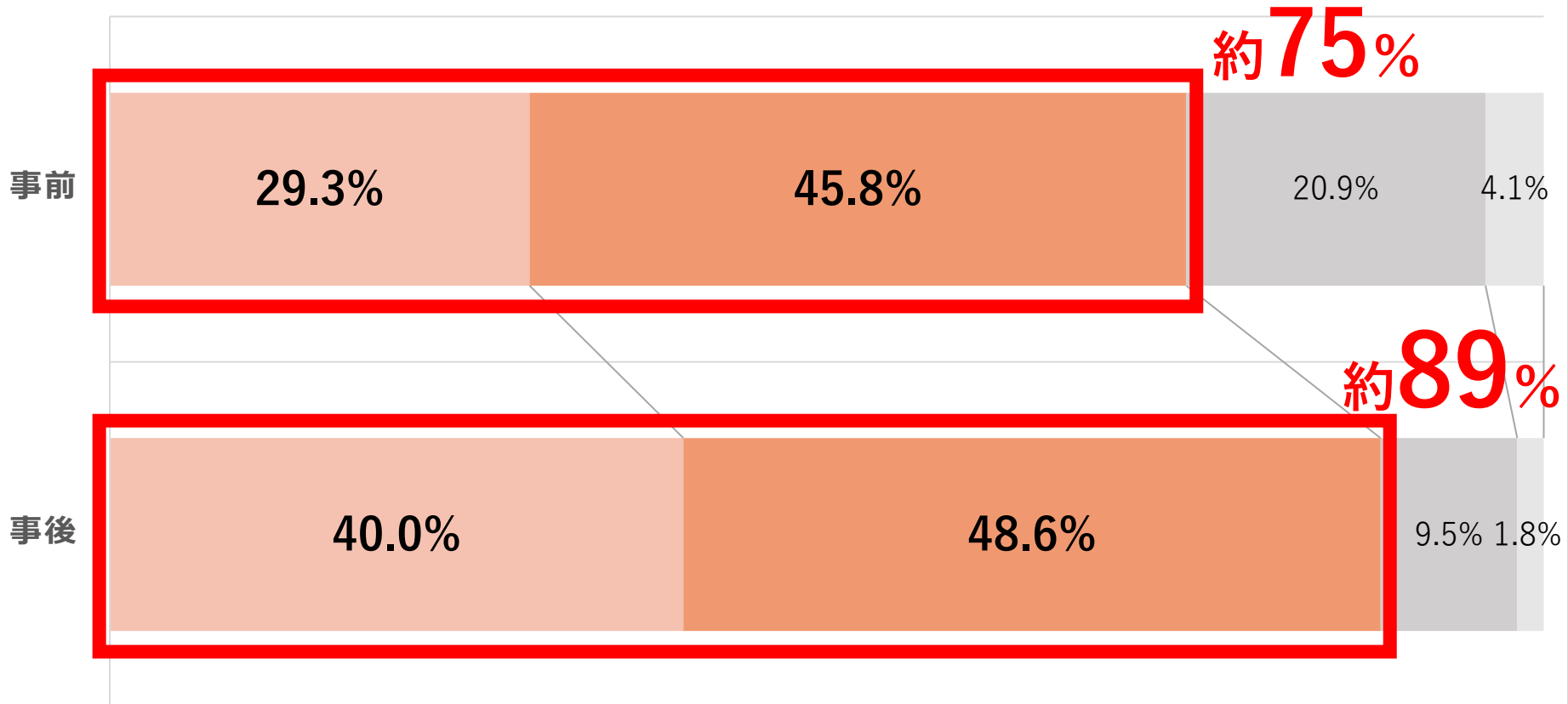


R8年度事業所・学校合同研修会 佐渡市教育委員会資料より

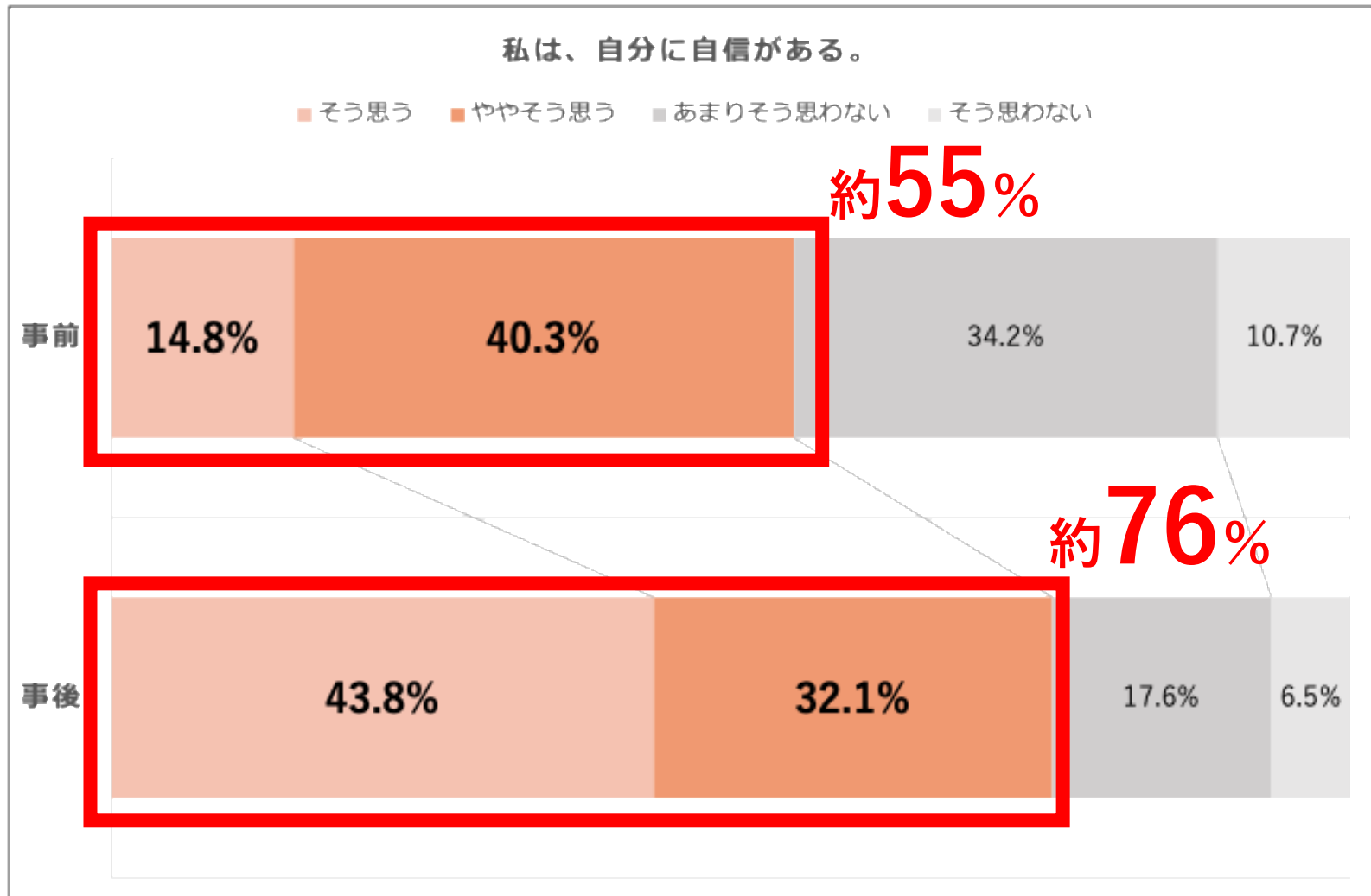
事前学習、事後学習の充実により、課題発見能力や課題解決能力等が育つだけでなく、**自分の得意を発揮しほめてもらったり、成果を実感できる**ので、自己肯定感も高まる

身の回りにある課題を、自分で見つけることができる。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



KSTの前後で、課題発見能力が約14%向上



KSTの前後で、自己肯定感が約21%向上

●事業所の仕事内容や抱えている課題などを知ることにより、**その仕事がどのように私たちの生活に関わっているか**を知ることができました。

●ミッションで考えたことが思った通りに行くわけではないと分かりました。そこで「**できない**」と終わらせずに、**じゃあ何ならできるのか、発想を変えていろんな見方で考える**ことが大切だなと思いました。



地域観
社会観

人生観

勤労観
職業観

●佐渡ならではの職場での体験もあり、**地域の魅力も再発見でき、誇りがもてました**。また、人のためにがんばっているところがかっこいいと思いました。

●事業所の方には大変お世話になり、**将来なりたい大人を見つける**ことができました。

●仕事は大変だと純粹に思ったが、**できた時の喜びは計り知れなかった**です。職場体験ができてよかったです。



ホテル



- KSTを体験した生徒がホテルの仕事に魅力を感じてくれ、内定が決まった。6年目にして人材の還流が生まれた。
- 従来よりも、生徒と対話ができるので関係が築きやすい。
- 去年より中学生の提案にあったプルタブ集めに取り組んでいる

ミッション
お客様と佐渡島民と一緒に
なっているSDGs
プランを考えよう



測量会社



- 佐渡の魅力に気づいてほしいという趣旨に賛同している。社会全体で子どもを育てていくという考えを島内に広めたい。
- 佐渡にいても最先端の技術で他県で認められる仕事ができることを知ってほしい。
- 若手がドローン技術を中学生に教えることで、人材育成の機会にもなっている



POINT1

**目線合わせ、信頼関係づくりのための
合同研修と生き方・働き方トーク**

何のための職場体験なのかを事業所、教員、生徒が共有する。ともにミッションをつくる中で相互理解できる。

POINT2

**教育委員会の伴走支援
事業所と学校の橋渡しをしている**

事業所が教育委員会に改善点を受け止め、各学校に伝えることで、毎年改善ができる。

POINT3

事業所側にも意味や得るものがある

人材の還流には時間がかかる。目的への腹落ち、生徒の視点からの発見など、現段階で意味や効果を感じられる仕掛けが必要。

POINT4

体験しっぱなしにせず、成果を共有

発表会参加や発表資料の共有により、生徒の成長を実感でき、行う意義を再確認できる。

**事業所の負担軽減、学校の事前事後学習の取り組み等
課題も対話し、改善し続けることが大切**

職場体験のねらいを問い直す

勤労観・職業観を育てることを目的に実施している学校が多いが、職業や勤労についてだけでなく、社会の課題に向き合い、自ら問い、協働しながら、社会と自分の関わり考え、職業が変化する予測不能な社会においても、自らの人生の舵取りする姿勢や考え続けられる資質能力を育む。

≡ 必然的に

探究プロセスをふまえたカリキュラムを設計する

事前事後学習において、職業調べをするだけでなく、問いを持つような事前学習、体験後は活動をふりかえり、自己内省や他者との交流を通して、自己の生き方・働き方のイメージを膨らませることができる。キャリアパスポートも有効活用する。

≡ そのために

事業所と目的を共有し、互いに意味のある連携協働をする

事業所との目的の共有が職場体験の質を決める。本物の社会と出会うことで、好きや得意を伸ばすことに結びつく。行政や地域連携担当教職員が組織間の葛藤や調整を担うことで教員の負担軽減にもつながる。